

日本 OR 学会メイリングリストについて

久保田 光一

1. はじめに

現在、OR 関連分野に携わる方々の電子メールアドレスデータベースを中央大学理工学部情報工学科で管理している。これは、「ローマ字氏名」、「電子メールアドレス」、「漢字氏名」、「所属」の4項目からなる、ごく簡単なデータベースである。このデータベースに登録すると、OR 関連の情報が配送されるメイリングリストに参加することができる。日本 OR 学会準公認という立場で、「日本 OR 学会メイリングリスト」という名称(以下 ORML)を使用しているが、その経緯を説明し、現状を報告する。

ORML には各種研究部会の開催通知や報告などの OR 関連の情報が配送されている。登録者は約 450 人であり、このような情報を配送するためには、ORML は手頃なものであろう。使われ方から考えて、「メイリングリスト」よりは、「掲示板」の方が適切な名称であるとの文教大学真鍋先生からのご指摘 [2] もある。

なお、ORML への登録・削除は気楽にできるので、興味のある方は付録を参考にして、いちど登録していただきたい。

2. 経緯と現状

1993 年春、日本 OR 学会のソフトウェア研究部会の発足にともない、学会関連の電子メールサービスの充実を図ろうということになり、部会内に電子メール関連の分科会を設置することとなった。直接の目的は、電子メールを通じて各種研究部会開催通知・報告を配布するシステムの構築である。将来構想の中には、電子ジャーナルの発行や OR 分野で公開されているソフトウェアをデータベースに蓄え、皆で相互利用できる

ようにすることなどもあった。ただし、現状はメイリングリストの管理で手一杯である。

当時、すでに、研究部会開催通知などの連絡のために用いられていた OR 関連の研究者のメイリングリスト(以下旧 ORML)があった。これは、筑波大学の鈴木久敏先生が作られ、管理されていたもので、この時から、単にメールアドレスだけでなく、漢字氏名、所属も登録していた。この情報は、1992 年発行の日本 OR 学会会員名簿にも収録されている。いくつかの研究部会では、個別のメイリングリストが整備されていたが、それらに重複して登録している方も多かったので、メールアドレスのデータベースを拡充して一本化することが電子メール分科会の第 1 の検討課題となった。

旧 ORML では、知合いを通じて、あるいは、名簿に記載されていた登録方法を見て、自己紹介を兼ねた登録依頼の電子メールを出すと、管理者がそれを受けて、手作業で登録していた。しかし、データベース拡充のためには自動登録が必須と考え、1993 年夏に、データベースへの登録・削除のためのプログラムを作成し、鈴木先生から引き継いだ旧 ORML の 121 人の方のメールアドレスを初期データとして、システムを構築した。実際に ORML の運用を始めたのは、1993 年 10 月からである。

その後、1993 年 11 月に、東芝の米田清氏が管理されていた CIM 研究部会のメイリングリストの 131 人分を ORML に融合した。当時の確認事項は、日本 OR 学会会員に限らず、だれでも登録可能ということであった。

平成 7 年 3 月の時点での登録者は 458 人、ドメイン名から推測される所属組織数は 193 である。また、登録要求のメールは 236 人から 274 通、削除は 47 人から 86 通、ファイル配送は 321 人から 790 通受けとっている。ただし、形式の誤りによる削除不能メール等も含む総数である。

3. 自動登録プログラム

現在はメイリングリストの構築・管理支援プログラムがいくつか公開されているが、当時はまだ少なく、不勉強であったこともあり、既成の支援プログラムとしては majordomo [1] しか検討しなかった。しかし、手動による登録の形態になるべく近い形で自動登録が行なえること、すなわち、漢字氏名、所属が入力可能であるという仕様を満たすように majordomo を改造する手間は、新規作成とほぼ同じという結論に達し、不細工ながら、プログラムを新規作成した。

データベース登録時に学会の会員番号も記入するようにし、日本 OR 学会専属のメイリングリストにするということも検討したが、単なる 1 つの研究部会としては、そこまで制限する必要はないと判断し、ローマ字氏名、メールアドレス、漢字氏名、漢字所属の 4 項目を登録してもらうようになっている。このあたりの運用規則は、学会の事務サービスがからんでくると、再検討する必要が出てくるであろう。

4. 今 後

電子メール以外のサービス、たとえば、anonymous-ftp, gopher, WWW サーバなどについては、あった方がよいのは明らかであるが、現在はそれらのサービスの開始を考えていない。われわれの学科の計算機の能力不足が主たる理由であるが、それらのサービスのためのデータを系統的に構築・更新できるような仕組みがないと、あまり役に立たないように思われることも理由のひとつである。実際、いくつかの研究部会別に受信専用のメールアドレスを設定し、研究部会の情報収集を試みたが、うまく機能しなかった。研究部会の開催案内や報告の履歴が簡単に参照できると素晴らしいが、そのためには、それらの情報を電子化する上で学会としてのある程度の共通方針を定める必要があるのかもしれない。

今後、電子メール以外のサービスも盛んになるであろうが、データそのものよりも、どこに何があるかという索引のような情報を配布するには、ORML は役立つと考えている。

参考文献

- [1] D. B. Chapman : Majordomo : How I manage 17 mailing lists without answering “-request” mail. Great Circle Associates, 1992.

- [2] 真鍋龍太郎：OR 学会電子掲示版の拡充を！、オペレーションズ・リサーチ, Vol. 40 (1995), No. 4, pp. 226-227.

付録：アドレス名と登録方法

● or-req@ise. chuo-u. ac. jp

ORML に登録するには、このアドレス宛にメールを送ってください。このアドレス宛のメールの本文中に

send :

help

という 2 行(間に空行を入れない)を書いてくだされば、折り返し登録・削除方法の説明ファイルを電子メールで送ります。

● or-allmembers@ise. chuo-u. ac. jp

ORML 参加者全員宛のメールは、このアドレス宛に送ってください。誰でも全員にメールを送ることができます。

● or-adm@ise. chuo-u. ac. jp

ORML に関する質問・苦情等のメールは、このアドレス宛にお送りください。

支部長および支部事務局の変更について

・北海道支部

支部長 若林信夫 (小樽商科大学)
事務局 〒047 小樽市緑 3-5-21
小樽商科大学社会情報学科内
今 尚之 研究室
Tel.0134(23)1101 内316
Fax.0134(22)0467

・関西支部

支部長 徳山博于 (住友金属工業)
事務局 〒540 大阪市中央区北浜東 2-16
日刊工業ビル
住友金属工業(株) システムエンジニア
リング事業本部
数理技術室 熊本和浩
Tel.06(942)8113 Fax.06(942)8115